NPO法人社会還元センター グループ わ 会報

情報ぎゃらりー

第 33 号

情報ギャラリー第３３号
発行日　２００６年1月２６日
編　集　グループ わ 広報部
発行者　納　利春
発行元　ＮＰＯ法人社会還元センター
グループ わ
TEL (078) 743-8101 FAX (078) 743-3830
Ｅメール group-wa@wa-net.jp
ホームページ http://www.wa-net.jp

2006 年の年頭に当って

理事長 納　利春

グループ わ の会員の皆様、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平素からグループ わ の活動運営に、ご理解とご協力を賜り、役員を代表して厚く御礼申し上げます。

おかげをもちましてＮＰＯ法人社会還元センターとしての事業も軌道に乗り、着々とその成果を上げております。平成 18 年度に向けて、受託事業の拡大を計るとともに、新たに会員相互扶助事業にも取組む所存でありますので、会員各位のさらなるご理解とご協力をお願い申し上げる次第です。

昨年 5 月、赤司前理事長のあとを受けて早や 8 ヶ月になります。この間、井上、三宅両副理事長はじめ理事、各部会長、各区会長各位の強力なご支援のもと、ＮＰＯ法人としての事業の推進、拡大に努めてまいりました。

ことにＮＰＯ法人格を取得してからグループ わ の仕事は急激に増えてまいりました。一昨年、こうべ環境未来館の管理運営事業の委託を受けたのをはじめ、昨年は引き続きその実績を買われて受託しています。

さらに子ども家庭センターの夜間および休日の電話受付業務も受託しています。それぞれ大変なそして大事な仕事です。これからの子どもを守り、次世代を育ててゆく大切な役目ですが、担当者のご努力で大過なく運営されています。

子どもたちの学習支援活動も広がりを見せています。市内の小学校から多くの派遣要請がきて、要望に応じきれないほどで、着々と成果を上げています。

フルーツフラワーパークでのイベントにも積極的に参画協働しています。行政との参画には積極的、発展的に行動しなければなりません。毎年契約更改があり継続申請するにはこうした積極的な計画が必要なのです。

外国人の留学生を含めたグローバルな動きにも心がけています。料理教室やスポーツ大会など国際部会だけでなく食文、いきがい部会など専門分野にも応援いただき好評を得ています。

各方面からグループ わ にお願いしてよかったとの評価を得ています。最近はいろいろの行政や民間でも環境や福祉方面の委託事業が増えています。グループ わ ではこうした実績をもとに、積極的に新しい委託事業の拡大に取組む考えです。

一方、赤司前理事長が提唱された会員相互扶助事業（仮称）をスタートさせたいと思っています。この春からは例示的に（とりあえず西区から）はじめたいと考えています。力だけの一方通行でなく、それぞれの得意分野を活かして助け合うことが大事ではないでしょうか。

グループ わ は会員皆様のものです。各グループ（新しいグループでも）の活動について本部にも相談の上、適合する助成金申請をしましょう。活動を期待して入会したものの何の動きも出来ないままの人達も多いと聞いています。

ボランティアは相手と共に楽しむので、その費用は自分で出すべきという意見もあります。しかし材料費とか交通費等の自己負担を少なくしないとボランティアは中々続けられないのではないかと思います。

助成金制度があります。中々難しいですが、突破口は必ず見つかります。区会、部会、本部と相談しながら取り組んでください。

来年はグループ わ の設立 10 周年に当たります。今年はその準備の年になりますが、会員の皆様方のイベント企画についての提案がございましたら遠慮なく申し出て下さい。

◆

「グループ わ」と「同窓会」の説明会

理事 － 小林　将悟

ＫＳＣ在校の３年生全員対象に授業の一環として１２月１２日（月）カレッジホールで、グループ わ と同窓会の説明会が行われた。明確に認識して頂きたい事は『ＮＰＯ法人社会還元センターグループ わ はＫＳＣ卒業生を主体としたボランティア団体であること。神戸市シルバーカレッジの建学の精神“再び学んで他の為に”を実践する場であり、ＫＳＣ卒業後（在学中であっても可）ボランティア活動を通し、やりがい・いきがい を得る場であること。』である。

説明は、法人の目的、事業領域、組織、最近の法人環境の変化、財務傾向、実活動の紹介、活動継続の重要性、等を中心に行われた。

在校生からの質問は「各活動グループへの新規参加にかかる件と情報のあり方とリアクションの問題について」あった。数少ない質問であったが、中身は大切な要素を含んでおり、確かに受け止める必要がある。

同窓会の説明もグループ わ と同時に行われたが、在校生に対して適切な説明がなされた。

当日参加者は３年在校生約 250 名であった。